

## さんかくひとりごと

### ～ 超高齢者が元気？ ～

厚生労働省が老人の日（9月15日）に合わせて公表した100歳以上の高齢者の数は8万6千人余りで、そのうち女性が9割近くを占めるというニュースがあった。しかも、前年から6千人以上も増加し、なんと51年連続の最多更新。身近で元気な高齢者に接していることもあり納得した。

「一〇三歳になってわかったこと 人生は一人でも面白い」という篠田桃紅さんの書籍に出合った。篠田さんは今年3月に107歳で逝去されたが、幼い頃から書に親しみ、書を学んだことで独自の世界観を創造した芸術家と言われている。生涯独身で100歳を超えてなお現役で活躍し、「休みたいと思ったら休めばいい、わき見をしたければすればいい、自分自身に目標を課す必要はない、やっておきたいことはどんどんやってみる。夢中になれるものが見つかれば人は救われる」と書いている。長い人生を生きぬいてきたからこそその言葉なのだろう。何か夢中になれるものを持って生きたいと思った。

（森）

100歳以上の高齢者の9割近くを女性が占めていると聞いてとても驚いた。男性は一人残されると途端に元気がなくなるようだが、女性は逆に一人残されても生活していくけるという強みがあるのだろうか。我が家夫にも一人で生きる術を学んでもらいたい。



## わたしと本『遠い声』

瀬戸内寂聴がカラフルな服を着てテレビに出ているのを見かけました。可愛いと思ったと同時に、瀬戸内さんの著書「遠い声」が頭に浮かびました。この本は、明治天皇暗殺計画の罪に問われ、幸徳秋水とともに死刑になった唯一の女性、管野スガ（享年29歳）の牢獄で書いた手記を読み解いていく作品です。

12歳で実母を亡くし、薄情な継母に育てられたという数奇な生い立ち。新聞記者となった後、社会主義運動者の男たちと天下国家を論じ合い、社会運動へと本格的に目覚めていきます。男たちに翻弄されながらも、その時々を自分の思うままに生きた「恋と革命」の女性の話です。

（梅）



著者 瀬戸内寂聴  
出版社 岩波書店

## ボランティア編集委員の編集後記

テレビで大学生が衆議院議員選挙へ行こうと呼びかけていた。大学生はオンライン授業で孤独に悩んだり、アルバイトの減少により経済的な影響を受けていたり。コロナ禍の中、政治に対するどうして？を問いかけている。

梅

アフガニスタンの女性たちに思いをはせる。タリバンの台頭により生活が一変してしまった人たち。それでもひるまず声を上げ続ける彼女たちを遠い国から応援することしかできない。たまたま生まれた国が違うだけなのに。

森

今年度も新型コロナウイルス感染症の話題が多かったが、コロナワクチン接種などにより明るい話題も増えてきている。まだまだ安心はできないが、明るい世の中に生きたいと思う。

のん

※参画だよりは3名の市民ボランティア編集委員にご協力をいただいて発行しています。

### ■編集発行

弘前市企画部企画課ひとづくり推進室 ☎036-8551 弘前市大字上白銀町1番地1  
電話：0172-26-6349(直通) FAX：0172-35-7956 E-MAIL：kikaku@city.hirosaki.lg.jp



# 参画だより

No.72  
令和3年11月発行  
弘前市企画部企画課

## 性の多様性に関するリーフレット完成

弘前市では、市男女共同参画プランに基づき、「一人ひとりが互いを尊重し合い心豊かに暮らせるまち弘前」の実現に向けさまざまな事業に取り組んでいます。

これまで、市が定める様式からの性別欄の見直しや市民向けセミナーなどを実施し理解を深める活動に取り組んできましたが、令和2年12月10日から、双方または一方が性的マイノリティの2人がお互いをパートナーとして日常生活で支え合い、協力し合うことを約束し宣誓を行い、その宣誓を市が証明する「弘前市パートナーシップ宣誓制度」の運用を開始しています。

さらに、パートナーシップ宣誓制度の運用をきっかけに、性の多様性についてより広く知ってもらうために周知啓発用のリーフレットを作成し、公共施設などへ設置したほか、市のホームページにも掲載しています。



### リーフレット「知る」から始める性の多様性

これまでの国内外の諸調査では、人口の3~10%が性的マイノリティの人たちとされています。性的マイノリティの人たちは、そうでない人たちと同じように生活しているため、家族や友人など、大切な人たちの中にいるかもしれません。

「会ったことがない」「弘前にはいない」と思っている方もいると思いますが、もしかしたら「いない」のではなくて、言わずにいる、あるいは言えずにいる、ということかもしれません。

一人ひとりが、性的マイノリティの人たちは身近にいると考えることで、環境は変わっていきます。誰もが安心して暮らせるまちづくりのために、知ることから初めてみませんか。

リーフレットの  
ダウンロードは  
こちらから



性の多様性を知ろう

こんな場面、見かけませんか？

弘前市パートナーシップ宣誓制度

「知る」から始める性の多様性

ボランティア編集委員の編集後記

テレビで大学生が衆議院議員選挙へ行こうと呼びかけていた。大学生はオンライン授業で孤独に悩んだり、アルバイトの減少により経済的な影響を受けていたり。コロナ禍の中、政治に対するどうして？を問いかけている。

アフガニスタンの女性たちに思いをはせる。タリバンの台頭により生活が一変してしまった人たち。それでもひるまず声を上げ続ける彼女たちを遠い国から応援することしかできない。たまたま生まれた国が違うだけなのに。

今年度も新型コロナウイルス感染症の話題が多かったが、コロナワクチン接種などにより明るい話題も増えてきている。まだまだ安心はできないが、明るい世の中に生きたいと思う。

※参画だよりは3名の市民ボランティア編集委員にご協力をいただいて発行しています。

■編集発行

弘前市企画部企画課ひとづくり推進室 ☎036-8551 弘前市大字上白銀町1番地1  
電話：0172-26-6349(直通) FAX：0172-35-7956 E-MAIL：kikaku@city.hirosaki.lg.jp

## 高校生向けワークショップ「恋愛・友人関係を心理学する」

令和3年7月31日、高校生向けワークショップをヒロ口4階弘前市民文化交流館ホールで開催し、高校生25名が参加しました。このワークショップは、弘前大学人文社会科学部准教授の古村健太郎さんを講師に招き、恋愛・友人などの親しい関係で生じる問題について考えるとともに、問題の予防啓発につなげていく内容です。



ワークショップの前半では、大学生を交えて親しい関係で生じる楽しみや悩み、悩みの相談先、恋愛の意味などについて話し合い、後半は心理学から見た恋愛関係・友人関係について古村さんが講義を行いました。

古村さんは、DVやストーカーの予防には相談できる他者など周囲の方の存在が極めて重要であることや、高校生・大学生が市役所などの行政機関や弘前大学のような教育機関を相談先として利用可能であることなどのお話をありました。

### 参加した高校生の声



自分では疑問に思っていた友人関係のことを初めて人に話すことができ、意見交換できただったことがよい経験になりました。



付き合っている人がいることを周りに話していませんが、恋愛関係の相談ができる人を作るためにも、ある程度周りの人に話すことも必要だと思いました。

## 「思春期の子どもの心を考える」保護者向けワークショップ

令和3年10月16日、「思春期の子どもの心を考える」をテーマに中学生・高校生の保護者の苦労や喜びを共有するワークショップをヒロ口4階 弘前市民文化交流館ホールで開催しました。

7月に開催した「恋愛・友人関係を考える」高校生向けのワークショップと同じく、弘前大学人文社会科学部准教授の古村健太郎さんを講師に招き、子どもに関する悩みや喜びについての共有や心理学から見た親しい関係についての講義を行いました。



参加した7名の保護者からは「子どもが高校生になると保護者同士で話せる機会が少なくなるので、同じ世代の子どもがいる人たちと話せてよかったです」「それぞれの悩みや体験について共有できたことで、自分の悩みの解決につながるヒントがもらえた」といった声が聞かれました。

また、同じ思春期の子どもといっても、保護者の思いや悩みは多様であることがわかり、子どもとの向き合い方を改めて考える機会となりました。

## きらめく人、ときめく心

### ☆今回のきらめく人 今川 善宏さん

第5回目は、東北で一番古い喫茶店「万茶ン」を引き継ぐ若き4代目店長今川善宏さんです。「万茶ン」は、作家の太宰治や石坂洋次郎、井上ひさし、洋画家の阿部合成らが通ったことでも知られる歴史ある喫茶店です。



### ○歴史を紡ぎ、県内外・老若男女の憩いの場として橋渡し！

今川さんは、昔の青春時代を懐かしむお客様だけでなく、県外から初めて訪れたお客様もホッとすると、また来たいと思わせてくれる魅力的な店長さんです。「一人ひとり幸せな気持ちにすることが商売の本質だ」というのが信条で、今川さんの接客にはおもてなしの心が伝わってきます。

美味しいコーヒーを提供しながらお客様の相談に乗ってあげたり、若い方に経験豊かな方を紹介してあげる橋渡しのような役割も果たしたりしています。しかも、まだまだお客様から学びたいという気持ちがあり、そのバイタリティが人を引き付けているのかもしれません。

### ○青森県を活性化させるのはここから！

五戸町出身の移住者である今川さんは、「万茶ン」を盛り上げることは青森県全体を活性化させることにつながると言います。県外の太宰治ファンが来店することもあるお店は、青森県の玄関口のようなもの。常連客や今川さんと話をすると、初めて訪れたお客様でも大分前からの知り合いのような感覚になります。1人静かにコーヒーを味わいたい方や読書などに夢中になっている方には、邪魔をしないように落ち着いた店内の空気がその方の時間を大切にしてくれます。

青森県と弘前市を愛し、「万茶ン」をこよなく愛している情熱家の今川さんは、その人柄とお店の雰囲気で青森県の良さを全国に発信しています。  
(のん)



## 弘前市女性活躍推進企業のご紹介

弘前市では、女性の活躍を推進するため女性の雇用環境の改善に向けた自主的な取組を実施している企業等を「弘前市女性活躍推進企業」として認定しています。女性の雇用環境を改善させることは、企業全体の成長、企業イメージの向上につながるといわれています。

### ○弘前市女性活躍推進企業のメリット

- ① 認定制度を支援している金融機関の融資制度の金利引き下げ
- ② 総合評価落札方式による入札の際、技術評価点として加点
- ③ 県や市で開催する女性活躍に関する研修等のご案内
- ④ 市ホームページにおいて取組内容等の掲載
- ⑤ 令和3年10月1日から新たに一部の有料広告掲載料の割引を開始！

認定制度に関する情報は  
コチラから



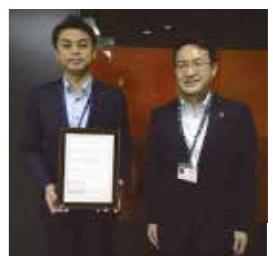
### ○令和3年4月から10月末までの新規認定



第52号認定  
株式会社堀江組



第53号認定  
放送大学青森学習センター



第54号認定  
社会福祉法人千年会